

予測システムの試験運用と各種情報の発信

雪氷災害軽減のための情報提供



雪氷防災研究センター 総括主任研究員 上石 勲

はじめに

防災科研では、雪崩、吹雪の発生や道路雪氷状態などを予測する雪氷災害発生予測システムの研究開発を進めてきましたが、災害対策においてこれが活用されるためには、予測情報が防災業務にマッチし、かつ正確であることが必要になります。また、雪国に住んでいる一般の方が雪氷災害から身を守るためにはわかりやすい情報も役に立つでしょう。

雪氷災害発生予測システムの試験運用

予測システムの試験運用を5年前から行っています。試験運用では、新潟県や山形県内の行政機関、道路管理者、雪崩パトロールを行う民間の業者の方々などにご協力を頂き、雪氷災害予測情報を提供し(図1)、その後ヒアリングやアンケート調査などを実施しています。これまでに頂いた、予測時間や範囲の拡大、精度の向上、利用しやすい情報への改良などの要望は、防災業務の観点からのニーズでもあり、研究を進める上で参考としてきました。

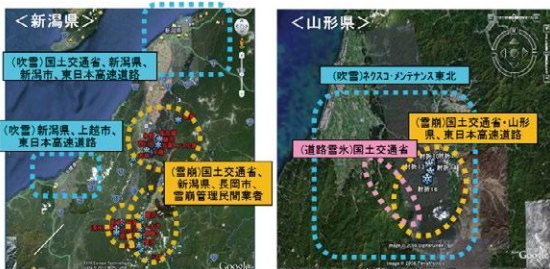


図1 試験運用でご協力頂いている機関と対象地域

吹雪による視程障害対策では、新潟市と共同で、視程障害の発生が予測される場合に、情報を携帯メールに流すシステムを開発しました。このシステム導入後は、パトロール出動の判断を的確に行えるようになったとのこと。また、山形県月山地区では、防災科研が提供する雪崩発生予測情報やリアルタイムハザードマップが、雪崩発生の危険性判断の貴重な資料の一つとなったとのご意見を頂きました。

雪氷災害関連情報の発信

防災科研では、日本各地に設置している積雪・気象観測点のデータ、積雪重量計の測定データをもとにした積雪荷重情報(図2)、融雪情報、レーダー観測情報をWebで公開しています。その他、一般の方にも役立つ雪氷災害に関する知識や情報も満載ですので、雪氷災害防止にお役立てください。

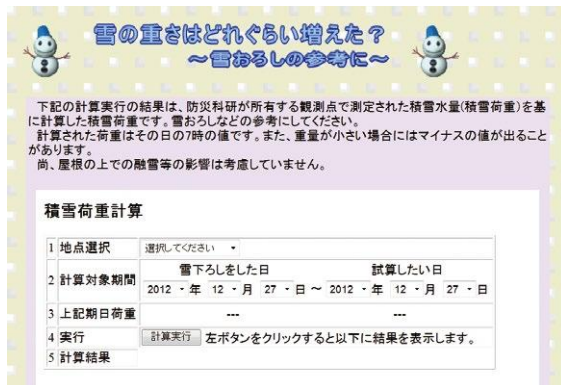


図2 防災科研雪氷防災研究センター Web (<http://www.bosai.go.jp/seppyo/>)の積雪荷重雪情報(屋根の雪下ろし時期の判断に利用されている)